

# 小論文コンクール入賞作品のご紹介

全入賞者の氏名等および上位入賞作品は、知るぽるとWEBサイト (<https://www.shiruporuto.jp/>) でご覧いただけます。両コンクールにおいて金融広報中央委員会会長賞を受賞した作品の概要や受賞者の声をご紹介します。

「おかねの作文」コンクールは今回で54回目となりました。今年度のテーマは、おかねに関するものであれば自由です。今回は、全国の中学生から4,324点の応募が寄せられ、審査の結果20点が入賞作品に選ばれました。



詳細はこちらから！

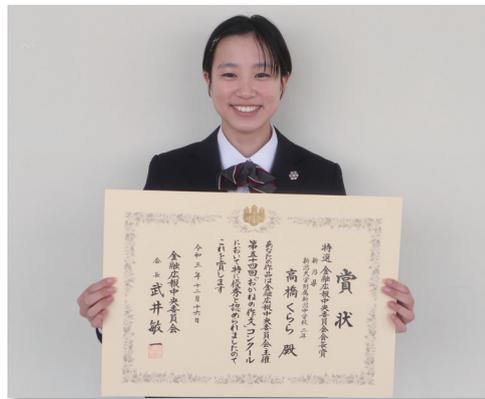
## 第54回「おかねの作文」コンクール

新潟大学附属新潟中学校 2年 高橋 くらら

### 金融広報中央委員会会長賞「お下がりランドセル」

#### 【作品概要】

ランドセルも、ワンピースも姉のお下がりの筆者は、新品を買ってくれない母に少し不満を持っていました。高学年になり、その不満を母にぶつけます。母から「姉は妹のことも考え、軽くてシンプルなデザインのランドセルを選び、大切に使ってきた」と教えられ、お金の節約のためと思っていたお下がりには、実は姉と母の想いが込められていることに気づきます。以来、無駄づかいをせず、寄付という「心が幸せになる」お金の使い方を実践しています。



#### 講評

「お下がりのランドセルに込められた母と姉の思いから、物を大切に使うこと、予算の制約の中で幸せになれるお金の使い方をするを学んだという心境が素直につづられている」、「『お下がり』という現代の子どもにはネガティブに受け止められがち体験を通じて、その裏にある人々の思いに展開していくところに豊かな人間性が感じられる。広く中学生、指導される先生方に読んで欲しい作品」と評価されました。

#### 受賞者の声

ものが溢れ、使い捨てが当たり前今の社会に疑問を感じ、この作文を書きました。姉からの「お下がり」のランドセルを通して学んだお金の価値観は、私を成長させると同時に、これからも心が満たされるお金の使い方を教えてくれるはずですよ。

### 特選入賞者(敬称略)

金融担当大臣賞 「思いやりのお金」	岩井 颯葉(栃木県 宇都宮市立一条中学校 2年)
文部科学大臣賞 「新たな一面」	酒井 優羽(神奈川県 聖ヨゼフ学園中学校 3年)
日本銀行総裁賞 「お札が紙くずになった日」	畠山 あずみ(京都府 京都市立旭丘中学校 1年)
日本PTA全国協議会会長賞 「コロナ時代に「おかね」について考えた事」	京田 悠雅(東京都 筑波大学附属中学校 1年)
金融広報中央委員会会長賞 「お下がりのランドセル」	高橋 くらら(新潟県 新潟大学附属新潟中学校 2年)

主催：金融広報中央委員会

後援：金融庁、文部科学省、日本銀行、公益社団法人日本PTA全国協議会、日本私立中学高等学校連合会

※おかねの作文(中学生)コンクールは、2022年も実施(6月ごろ募集開始)予定です。

# 中学生・高校生を対象とする作文・

金融広報中央委員会では、中学生や高校生に金融・経済への関心を高めていただくことを目的として、毎年、作文・小論文コンクールを実施しています。厳正な審査の結果、2021年度は次の方々が上位に入賞されました。



詳細はこちらから！

高校生小論文コンクールは今回で19回目となりました。今年度のテーマは、金融や経済に関するものであれば自由です。今回は、全国の高等学校から1,612点の応募が寄せられ、審査の結果20点が入賞作品に選ばれました。

## 第19回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

香川県立観音寺第一高等学校 1年 合田 怜奈

### 金融広報中央委員会会長賞「寄付でつながる社会」

#### 【作品概要】

コロナの影響でおこづかいを使う機会が減った筆者。「強制貯蓄が1年間で約20兆円」という日銀の試算を用い、コロナ禍を乗り切るために今お金を必要とする人に届けることができないかという問題意識を持ちました。そこで、お金の使いみちの選択肢として寄付を取り上げ、その魅力を考察しました。フードバンクやクラウドファンディングにふれつつ、①お金の多寡を問わず誰でも参加でき、②活動を知ることによって支援がより広がり、③気持ちもつながること、の3点をあげます。そのうえで「世界寄付指数ランキング」のデータから、日本には寄付文化が根づいていない現状を指摘。「寄付という温かい血液が日本中に巡り、もっと元気な日本になってほしい」と結んでいます。

#### 講評

「寄付には投資にはない良さがあることを自分なりの視点で記している」、「クラウドファンディングについて近隣の具体的な事例をあげるなど、身近なものとしてとらえていた」と評価されました。



#### 受賞者の声

寄付と聞くとどこか遠い話に思っていたのですが、小論文を書いていく中で、「一円からでも始められる」「応援したいと思う機関に投資できる」など、寄付の身近さ、利点について気づくことができました。寄付のような社会・経済ともによくする活動に参加し、より良い未来のために貢献したいです。

### 特選入賞者(敬称略)

金融担当大臣賞	「父を見て学んだ経営者の姿勢」	神田 陽那 (大分県 大分東明高等学校 2年)
文部科学大臣賞	「ものを大切に使うということ」	小林 晏 (東京都 東京都立国際高等学校 2年)
日本銀行総裁賞	「エシカル消費で持続可能な社会へ」	時津 和花 (東京都 東京都立国際高等学校 2年)
全国公民科・社会科教育研究会会長賞	「消費者としての私たち」	森口 爽来 (東京都 東京都立国際高等学校 2年)
金融広報中央委員会会長賞	「寄付でつながる社会」	合田 怜奈 (香川県 香川県立観音寺第一高等学校 1年)

主催：金融広報中央委員会

後援：金融庁、文部科学省、日本銀行、全国公民科・社会科教育研究会、公益財団法人全国商業高等学校協会、全国家庭課教育協会、日本私立中学高等学校連合会

※高校生小論文コンクールは、2022年も実施（6月ごろ募集開始）予定です。